

委員会名	2023 年度 第 2 回 生産技術委員会
開催日時	2023 年 7 月 6 日 15:00-17:30
開催場所	INPEX 会議室(Zoom ハイブリッド開催)
出席者 (敬称略)	(現地)吉岡委員長、山崎副委員長、飯野、知識、安達、谷口、多田、村井、中島、久々宇、矢島、桐山 (オンライン)加藤、小林、佐藤、阿部、荒木、上谷、古井
議事	<p>1. 事務報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JOGMEC 加藤副委員長が退任し、山崎副委員長が後任となった。 ・ 出光 巳波委員が退任し、多田委員が後任となった。 <p>2. 幹事会報告</p> <p>知識委員より幹事会議事概要 (第 88 期 3 回) が報告された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電源開発、大成建設の賛助会員への入会が承認されたことが報告された。賛助会員の会費も今後増額し予算を黒字化していく方針が示された。 ● 令和 5 年度 5 月次一般会計収支について問題なしで一致したことが報告された。 ● 春季講演会について、宿泊場所は想定していた程ひっ迫してなかった。castle hotel を石油技術協会ですべては使わなかった。 ● 将来像検討会議について以下報告がなされた。 <ul style="list-style-type: none"> ○ CCS 委員会が総会で承認された。 ○ 6/7 に委員長の長縄先生と各委員会で話し合いを持ち、6 月末までに各技術委員会から 2 名の委員を選出することとなった。→副委員長に JOGMEC 赤井さん、RITE 横井さんで調整中。7 月中旬キックオフ予定。 ● 石油技術協会の法人化について議論された旨報告。外部からの資金援助を得るため。既に法人化している一般社団法人リモートセンシング学会はじめ、他の学会へヒアリング開始した。 ● 秋季講演会 (案) テーマについてについて議論があった旨報告がなされた <ul style="list-style-type: none"> ○ 新設の CCS 委員会が立ち上がったので CCS テーマが自然。 ○ テーマ案として、資源開発と CCS、CCS/DX 人材が求める Global 人材が挙げられた。 ○ CCS のテーマを軸に、Global energy の危機やパラダイムシフトの時期などのテーマを入れていくのも一案として挙げられた。 ● 90 周年記念式典の開催・場所について議論があった旨報告がなされた <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回はオリンピックセンターであったが、ハイブリット開催の費用の高さから別の会場を調査中。 ○ 候補としては下記の通り。 東大本郷キャンパス内施設、早稲田国際会議場、文京区シビックセンター、昭和女子大 <p>(質疑)</p> <p>谷口委員：90 周年記念式典の催しとして何か予定しているところはあるか。 知識委員：今のところ決まったものはない。過去には講演と記念パーティーが行われた。 久々宇委員：来年度の講演会の開催方法もハイブリットか。 知識委員：基本はハイブリットで実施する方針。参加者は全体で会場参加 300 名程度、オンライン参加 200 名程度でいいところ取りができて印象を持っている。開催場所はハイブリッドが開催できる場所を優先して検討している。 吉岡委員長：CCS 委員会は各技術委員会から 2 名限定で委員を推薦するのではなく、「2 名以上」という理解で正しいか。 知識委員：最低 2 名の認識が正しい。</p>

3. 理事会報告

吉岡委員長より第 88 期第 2 回理事会議事概要の報告がされた。

- 秋季講演会のテーマは CCS 委員会発足にあたりそれにふさわしいものを考えている。次回理事会までにテーマを固める方針。
- 90 周年記念行事は、これまでの記念行事を概ね踏襲し、次元的な組織を作って、行事や用語集の作成を行う必要がある。
- 賛助会員に大成建設、電源開発株式会社が加わった。
- 総会での議論の振り返りについて以下報告がなされた。
 - 会則の文言の変更。
 - 講演会の参加費の値上げについては議論があった
 - 特別講演会の参加者が大きく増えたこと
- 見学会は 3 つあったが、いずれのコースにも予定人数以上が参加。
- オンデマンドで、特別講演、シンポジウム(講演・パネルディスカッション)が配信中であること報告がなされた。
- 春季講演会反省点について下記報告がなされた
 - 資料・登録証が印刷不足。
 - 個人講演のパーテーションの防音が甘かった。
 - ポスター発表の会場と作井部門の講演会場が狭かった。
- 将来像検討会議では、目下、法人化が大きな課題。
- SPE,JAPT 共催イベントについては Committee のメンバーには声かけ済み。
- CCS 委員会関係にいて下記報告がなされた
 - 6/7 のミーティングでは会長、副会長、長縄先生、各技術委員長が出席。
 - 生産技術委員会からは、小林先生、米山様 (ITOCHU)、荒木委員、松本委員、中島委員、桐山委員がノミネートされた。
 - 探鉱委員会からは 2 名、作井委員会からは 8 名候補者が挙がっている。
 - CCS 関連、とりわけ CO2 を扱う上での便欄があると便利だと意見が出された。
 - 新たなジャーナルを出したいという意見がある一方で、既に存在する協会誌を有効活用しては、という意見もあった。

(質疑)

山崎委員：今回の春季講演会の参加者が増えたというのはコロナ前よりも増えたのか。

知識委員：コロナ前よりも参加者は増加している、コロナ前を参考に、現地参加 200 人、オンライン 100 名で予算を組んでいたが、実際は現地 300 人の参加者が合った状況。会場が AU となった理由として、200 人分の予算で組むにあたって当初候補だった駅前のいくつかのホテルでは予算超過が必至であることが判明、あらためて、より安価な会場(AU)に変更した経緯がある。参加費は、赤字であった去年よりも増額している。

山崎委員：参加費を下げる余地はあるということか。

知識委員：会場次第だが余地はある。赤字にならない運営をすることが前提条件。

山崎委員：参加者のうち、非会員の方の属性は。

吉岡委員：未だ分析できていない。

知識委員：CCS が含まれることで裾野は広がった印象がある。知る限りでは、非会員の方の参加者として、再エネ関係、報道関係、鉄鋼系の方が多かった。

谷口委員：ブースを出した企業から声は聞いているか。ブースを出したのは久しぶりだと思うので、今後も実施すべきかの判断材料になるのではないか。

知識委員：幹事会では議論があった。あまり人が集まらなかった印象を抱いている。ポスターセッション等、協賛されている企業様の時間を設けてもよいのではないかという議論があった。

谷口委員：「”原材料”としての役割を盛り込んで欲しい」という文言の意味は？

吉岡委員：背景まではわからない。

中島委員：企業ブースは JOE も出していたが出展費用が 5 万円程であった。人はあまり来なかった印象。企業側のメリットがもう少しあってもいいのかもしれない。

吉岡委員：プレゼンの時間や企業出展用のコアタイムがあるといいかもしれない。

中島委員：別ブースの企業から、他の学会よりも学会参加者と話す機会が少なかったという意見もあった。

村井委員：オンライン参加者からの苦情はなかったか。もし、配信が上手くいかなかった場合の責任が発生することになる。

久々宇委員：音漏れがオンラインにも乗っていたという声は受けているが致命的なご指摘はいただいている。

知識委員：オンライン配信のバックアップとしてのオンデマンドは重要。

吉岡委員：個人講演は今年オンデマンドを実施していない。今のところは幸いにも事故はなかったという認識。オンデマンド化によるとコスト増とのバランスも考えていかないといけない。

谷口委員：トラブルがあった際に、そこだけオンデマンド配信するのも一案。

飯野委員：今回、募集するときにハイブリットでやることは周知されていたか。キャプチャの可能性を心配する声があった。

知識委員：会則には入れているが、2 月頃までハイブリットのコストがでなかったためアナウンスが遅れた。

荒木委員：春季講演のプログラムが石油技術協会の HP 上で探しづらかったので、アクセスしやすくすると参加もしやすくなるのではないか。

飯野委員：春季講演会のページからは見られず、石油技術協会のページからはみられるという状況であった。

谷口委員：受付で配布すると尚嬉しい。

4. 2023 年春季講演会について

シンポジウムの振り返りについて加藤前副委員長より報告がなされた。

- 6 名の方にご講演いただき、パネルディスカッションのお題を事前に 5 つ用意した。
- シンポジウムの良かった点は多く聞かれた。特に幅広い内容が聞けてよかったという意見をいただいた。
- 改善できる点として、休憩が短いこと、パネラー同士の意見交換を増やすべきであること等のご指摘を頂いている。
- 来年度のシンポジウムについては下記のような意見を頂戴し、それにて報告がなされた。
 - パネルディスカッションの実施には好意的であったため継続したい。
 - 募集するテーマについては、カーボンニュートラル、DX などの要望が多かった。DX については、どういったものが求められているのかブレークダウンすべき。カーボンニュートラルについては CCS 委員会が設置された状況で、どのようにすべきか要議論
 - テーマの意図をパネラーにより明確に伝えるとよかったと感じた（例、話題 3、地域目線とはどういう意味か？という質問への質

問があった)

- 登壇者とはメールベースの事前やり取りしかなかったのが反省点である。他の登壇者への質問も事前協議していなかったため、パネラー同士の議論が不足したと感じた。
- 各パネラーに1問ずつ用意してもらえば、議論の活発化、自分の質問へは厚く答えていただけるかもしれない

(質疑)

知識委員：パネラー同士が事前に合うことは現実的か

加藤前副委員長：入場する時間はばらばらで、難しいと考える。

知識委員：事前に15分程度パネラー同士が話をする場があるよと感じた。

安達委員：来年度のシンポジウムはCCSと完全に別れるのか。

吉岡委員長：方針は固まっていはいない。開発・生産のシンポジウムとCCS委員会を共催にする等のアイデアが出てくる可能性はある。

山崎副委員長：CCS委員会が立ち上がったなら、他の委員会とのデマケも考えていくという認識で良いか。

吉岡委員長：来年度の生産技術委員会のシンポジウムについては、現段階では未だ我々にイニシアティブがある。CCS委員会の動き、こちらが扱おうとするテーマ次第で対応が変わってくる。

久々宇委員：CCS委員会の情報も、次回以降の委員会で共有する時間を設けられればと思う。

個人講演の振り返りについて矢島委員より報告がなされた。

- 参加者属性は石油開発系の生産部門の方が大多数を占める中、G&Gも回答者の3割にのぼったことが印象的。他分野からの参加も多いことが見て取れる。
- オンライン参加、現地参加とも概ねポジティブな意見が多い。ハイブリッドを志向する裏付けになる。
- アンケートの方法や、オンラインの細かな運営に関する意見もあった。
- 総評として、音漏れ、ポスター会場が狭い、アンケートの回答方法の改善が挙げられた。

(質疑)

知識委員：アンケート回答率はどれくらいを期待していたか。

矢島委員：会場には最大50名ずつなので、回答率は半分には満たない。

知識委員：3割くらいなら、その程度かなとも思う。個人講演が始まる前にアンケートを掲示する等、回答率を上げる工夫が必要であった。

矢島委員：最後までいた方は回答したと思うが、一番来場者が多いタイミングで掲示できなかった。プログラムの配布に挟みこむのも一案である。

久々宇委員：ポスターコアタイムにQRコードを提示していたが、個人講演会場に人はいなく、掲示するタイミングは難しかった。

桐山委員：メールでのアンケート配信は検討したが、事務局より講演会参加登録の段階でどの部門か区別できないので難しい旨、報告を受けていた。

古井先生：100名参加は盛況であったと想像される。作井部門においても費用面などを鑑み、ハイブリッドを続けるかは議論になっている。生産技術委員でも引き続き検討いただければと思う。

個人講演の優秀賞について久々宇委員より報告がなされた。

- 優秀発表賞の結果について報告。
- 学生優秀賞の講評については運営幹事から依頼予定。
- 得票数を基にした協会誌への投稿推薦を該当者に依頼済み。

シンポジウム原稿査読について桐山委員より報告がなされた。

- シンポジウム原稿については講演者に9/11締切で依頼している。例年、委員各位に査読を依頼しており、7月中に連絡することとする。

(コメント)

加藤前副委員長：シンポジウム講演者と同会社の生産技術委員から、原稿提出を促進する声かけをお願いしたい。

5. 次年度の委員会開催日・場所について

久々宇委員より次回の委員会の開催について、説明された。

- 第3回の実施日時が当初予定から変更となった。

	2023(案)		2022	2021
第1回	5月11日(木)	JOGMEC (ハイブリッド)	JOGMEC→オンライン	JOGMEC →オンライン
第2回	7月6日(木)	INPEX (ハイブリッド)	ハイブリッド(INPEX)	INPEX→オンライン
第3回	9月14日(木)	JX	JX→オンライン	JX→オンライン
第4回	11月2日(木)	九州大学	ハイブリッド(秋田大)	秋田大→オンライン
第5回	12月1日(金)	京都大学	ハイブリッド(東北大)	東北大→中止
第6回	1月11日(木)	出光	ハイブリッド(CIECO)	CIECO→オンライン
第7回	3月7日(木)	JAPEX	ハイブリッド(JAPEX技研)	JAPEX→オンライン

6. 話題提供

飯野委員 “Simulating CO2 migration via Conductive Faults by Embedded Discrete Fracture Model”

以上